

マイキラー L 技術情報

作物に散布した場合の被害防止効果

(虫体に直接薬液がかからない場合)

佐賀県果樹試験場 2019年

供試虫: チャコウラナメグジ

供試作物: カンキツ (上野早生・5年生/樹高約70cm/幹周約6cm/内径3.2cmのポット栽培)

処理法: 1樹あたり0.5ℓを散布し、風乾後、ポットの土壌表面に1樹当たり30頭のチャコウラナメグジを放虫し、樹全体を袋で覆った。

調査: 1処理区について3反復行なった。

2、5、9日後に生存状況と登はん率を調査した。

3反復の合計	供試虫数	2日後						5日後						9日後						
		生存		死亡		登はん率%	累積死亡率%	生存		死亡		登はん率%	累積死亡率%	生存		死亡		登はん率%	累積死亡率%	
		地上	樹上	地上	樹上			地上	樹上	地上	樹上									
マイキラー L	200倍	90	0	0	90	0	0.0	100												
マイキラー	200倍	90	0	0	90	0	0.0	100												
B剤	100倍	90	85	0	5	0	0.0	5.6	73	9	3	0	11.0	8.9	80	0	0	2	0.0	8.9
無処理		90	51	28	10	1	35.4	11.1	11	57	5	7	83.8	16.7	60	6	0	8	9.1	16.7

登はん率 (%) = (樹上の生存虫数 / 全生存虫数) × 100

●マイキラーLの200倍液処理区では、2日後には全個体が死亡し、登はん率も0%であり、被害は生じませんでした。

薬液が直接虫体にかからない場合でも被害防止効果が期待できます。(降雨などの環境条件により効果が低下する場合があります)

マイキラー L の上手な使い方



- 使用前によく振ってからご使用ください。
- ナメグジ類、カタツムリ類は夕方から朝にかけて活動しますので、活動を開始する夕方の散布をおすすめします。
- 降雨後など、湿度の高いときに散布することをおすすめします。
- カタツムリ類を対象に散布する場合は、カタツムリ類が活動しているのを確認してから散布してください。(殻に閉じこもった状態(休眠状態)のカタツムリには効果が出ないおそれがあります)
- 次のような条件下では、効果不足のおそれがあるので散布しないでください。
 - ・極端な高温・乾燥
 - ・散布直後に多量の降雨が予測される場合
- ほ場周辺雑草地の生息地に使用する場合、ナメグジ類、カタツムリ類は雑草の間、石の下や敷きわらの下など暗く湿度の高い場所を好んで生息しますので、それらの場所に散布すると効果的です。その際、作物にかからないよう十分に注意してください。



商品名:マイキラー
有効成分・成分量:メタルデヒド30.0%



商品名:マイキラーL
有効成分・成分量:メタルデヒド10.0%

薬剤を散布した

効果が認められた

効果が認められなかった

確認した日が散布から
1週間以上経過
していませんか？

薬剤散布後(当日)に
まとまった
降雨があった。

散布前後に
降雨がなかった。

残効はマイキラーは3～
5日程度、マイキラーLは
1日程度です。
調査までの間隔が空い
てしまうと、その間に株
元から別の個体が登っ
てくる可能性があります。

散布後、薬液が乾く前に
まとまった降雨があると
薬液が流れ落ちる可能
性があります。

ナメクジ類、カタツムリ
類は乾燥状態が続くと
動かなくなります。
特にカタツムリ類は長期
間殻の中に閉じこもっ
て動かなくなります。殻
の上からかかっただけ
では死亡しません。

密度が高い場合は株元
散布用のナメクリーン3
と併用することをおす
めします。

降雨影響がないように降
雨予測を行って散布をし
てください。

降雨後など湿度の高い
時に散布することをお
すすめします。
カタツムリ類を対象に散
布する場合は、カタツム
リ類が活動しているの
を確認してから散布し
てください。

- 降雨後など湿度の高い時に散布することをおすすめします。
- カタツムリ類を対象に散布する場合は、カタツムリ類が活動しているのを確認してから散布してください。